

Combined Fleet Girls COLLECTION FAN BOOK



おしっこれくしょん 戦艦編上

Piss-Colle BATTLESHIPS Former Part

Volume 20 for ADULT ONLY

任務司令艦 大淀の日記より

何がどうしてこうなったのか、説明が難しい。

まず、戦艦娘の定期診断の時期がやってきた。これは明石さんの仕事。

そこに提督が口を挟んだ。最近海外の艦娘が増えたこともあって、色々人間（？）関係に変化が生じている。自分の知る限り、新たな性愛関係もあるみたい。例のセクシュアリティについての「調査」を大々的にやるいい機会ではないかしら。戦艦娘は伸び伸びになっていたし、云々。

そして、不肖・大淀も関わることになった。艦娘どうしとはいえ、一番年かきな感じで、「昔」も「今」も艦隊の要である戦艦相手には気後れすると明石さんに泣きつかれた。連合艦隊旗艦を務めた私を通せばやりやすいというわけだ。

ここで清霜ちゃんが登場する。というか、乱入してきた。戦艦になるための訓練を日夜欠かさない、このいたいけな駆逐艦娘は、「戦艦を調べれば戦艦になる方法がわかる」と理解したらしい。自分も参加すると騒ぎだし、朝霜ちゃんが雑にツッコんだおかげでますます大事になり、泣いてわめいて、他の駆逐艦娘のみならず、武蔵さんをはじめとする当の戦艦諸姉も知るところとなってしまう。

そして、大いなる威厳をもってその場を収めた長門さんの、意味深な言葉。

「私はむしろ……駆逐艦になりたいかもしれないな」

これがどうも、駆逐艦娘たちの好奇心に火をつけたらしい。あれやこれやのうち、私が統括し、明石さんが監督し、各戦艦娘にゆかりのある十数人の駆逐艦娘が「調査」する……という体制が整ったのである。

ややこしいことになってきたなあ……。

金剛型一番艦

金剛

下着姿

「待ちかねてたヨ！ Oh 淀！」 「大淀です」 「さあ、逃げも隠れもしマセン！ 熟れたBodyを存分にもてあますとイイネ！」 「金剛姉さん、それ『もてあそぶ』じゃ」 ペし、どツツコミを入れる浦風ちゃん。彼女のもとには十七駆の少女たちがいる。

金剛型二番艦

比叡

いつも一〇〇ワットに明るい立ち振る舞いのせいか、金剛さんは色気と縁がなさそうなのだけど。こうして見るとさすが戦艦、私なんかじゃ到底似合わない、大人な下着をさらりと着こなしている。いいなあ。「お、お姉さまの……かはっ」隣で固まっている比叡さんはもう少しカジュアルな感じ。金剛さんより小柄だけど、がつり鍛えた筋肉質な体躯が目を引く。機動部隊の、軽い子たちとテレビやゲームに興じる姿ばかり目にするけど、聞けば長良さんのトレシニシグに付き合うことも少なくないそうさ。



金剛型三番艦 榛名

「提督も大淀さんも、えっちなです……」唇を尖らせる、戦艦でもとびきりの美貌を備えた三女。「お姉さまや霧島まで」もじもじと身体をよじらせるたびにかたちを変えお胸。こんな見た目に反して、中身はいかにも少女然としているアンバランスさもまた魅力かも……そう言える程度には、今の彼女は安定している。

金剛型四番艦 霧島

「こ、これは想像以上に……照れくさいわね」「大丈夫です、霧島さん。朝潮も脱ぎます！」「うふふふ。脱がしているのは、脱がされる覚悟のある女性だけなのよ？」大きな身体をすくませて、目を白黒させている霧島さんが、朝潮ちゃんと荒潮ちゃんに囲まれている……元はといえば、彼女が発端だったのだ……あの下着、ちよつといいいな。

胸部装甲・陰部

「金剛姉さん、榛名姉さん、綺麗じゃねえ」うつとり呟く浦風ちゃん。「それに、精悍だ」「Oh！ イソちゃん、情熱的ネ」ぺたぺたとまさぐられ、身をよじらせる金剛さん。私が見るところ、姉妹では一番女性的な腰つきだけど、その……西洋の女性みたいなのに、下のお毛々を剃っている。「つるつるのだけ……谷風のは、やつぱり……違いませうね」まじまじと見つめる浜風ちゃん。まあ、あの子のはそりゃ……。「榛名姉さんのはやわこくて、量もええ具合じゃ」……浦風ちゃん……えい。「……よ、大淀さんまで!?」ロケット型、っていうのかしら。榛名さんの少し突き出たおっぱいとか……いいわよね。

「二人の並び立つ姿、昔どおりだな」磯風ちゃんがぼつりとこぼす。……陽炎型やこの大淀、他のどんな艦娘たちよりも先に建造され、長い時間を過ごした金剛型戦艦は、ミッドウエー作戦を除いて比叡、霧島と金剛・榛名のコンビだった。緒戦こそ南方に投入されていたもの、比叡・霧島が失われてから長く機動部隊とともに在った金剛・榛名と、十戦隊の主力たる十七駆の縁は深い。……金剛の最期を知るのも、また、彼女たちだ。



「ひ、比叡お姉さま……」「は、恥ずかしがったら負けだよ霧島。っていうか、あなたのその……から始まったことじゃない!」「あの、朝潮、そのことはもう……」「第三戦隊第二小隊の二人が女性的な丸みを帯びた体格なら、第一小隊……のうちの第十一戦隊の二人は全身これ筋肉。至近距離での乱戦で傷つき沈んだ過去が関係あるのだろうか。」「でもお、ちゃあんと女らしくて、荒潮は好きですよお!ほらあ大淀さん、比叡さんも霧島さんも、大きくてやわらかいお胸でしょう?」「ヒエエ」「アッー!」



「霧島さんの」熱っぽい眼差しで、全裸の朝潮ちゃんを迫る。「下の……、濃い、ですよね」「え、ええまあ」「朝潮も……前の、あのときより、ちゃんと生えました」「……」「いいな、と思ったんです。目の前で、見せていたとき。私も成長して、強くなつて……。そうしたら、今度こそ、助けられる気がして」目を伏せる朝潮ちゃん。第三次ソロモン海戦で朝潮がアイアンボトムサウンドへ進出したのは、比叡と霧島が相次いで沈没する、そのちょうど合間だったと聞いている。いろいろな過去が、絹の糸のように、絡みあっている。

性器1

「あ、ご、ごめん
 なさい、綺麗だからつい」「ドコが綺麗ですか？」浜風
 ちゃん、かあつと顔を火照らせ、「こ、金剛の……お、また」
 「浜風、このことはおまんこと言うのだから。知っているぞ」
 「ぶつ！」「磯風ちゃん……」「キコケシジョ、だからなのか？
 谷風のと同じくらしいの色合いなんだな。大和や矢矧のはもつと
 黒いんだぞ。ふむ……浜風の側のひだのほうが大きいのか。面
 白いな。おまんこというやつは」「よ、容赦ないネ……」「瞳を
 潤ませ、切なげな吐息を漏らす金剛さん。「ワタシだって……
 こんなこと……されたら、興奮しマース……」



放尿1

「ウラちゃん……こういうの、favoriteでシヨ？」「え、や、うち
 は」「こんなピクチャで夜中にエンジョイしているとイソちゃんが」「い
 そーかーぜー!!」「怒るなよ、本当じゃないか。金剛も、浦風になら見せて
 やつてもいいと言うのだぞ」「あえ……」「No Problemネ、ウラ
 ちゃん。イヤなら、こんなこと……しマセン。ホラ……」じよおとおお……
 ティーカップに勢いよく放出される、レモンティーのようなおしっこ。なる
 ほど、すごく……西洋のえっちなびでおじみた光景だわ。「あ……ぶちすご
 い……」すっかりのぼせ上がった浦風ちゃん、右手をティーカップのおしっ
 こに浸したり、かき混ぜたりしながら、左手で自分のおまたをぐちゅぐちゅ
 と弄っている。そしてティーカップに口をつけ、「ん……へんな、味じゃ
 少し吸ると、涙を流しながら微笑んだ。「ええのう。金剛姉さん、生きちよ
 るのう。ええのう……ええのう」「ウラちゃんも……ネ」



性器2

「霧島さん……ぬるぬる」朝潮ちゃんの震える指が、広がられた……小陰唇を撫ぜる。膣口まわりまでよく発達した鬚が、それに合わせてかたちを変える。「ここ、大きい」「んウツ」皮のうえから陰核に触れ、「ん……あつ、い」膣口に没入。「あさ、し」霧島さんの……せいでです」優等生な霧島を脱ぎ去り、蕩けた眼差しを向ける少女。「あんなこと……するから、こう……いっついの、覚えて」

「霧島さんの……ことも、してあげたいつて、そんな話してたんです。朝潮ちゃんたちと」いつのまにか照月ちゃんが身を寄せている。彼女は沈みゆく霧島の乗員を直接救助した艦だ。「ね、えっちしたい……です。霧島さんと。自分の意志で。いいでしょう？」

放尿2

「霧島さんに……恨みとか、ないです。本当に。あのとき、霧島さんも見せてくださいましたから。だから、これは朝潮の欲……です。恥ずかしい、格好で……霧島さんの……見たい」……あなたが、そういうのを剥きだしにしてくれるの、嬉しいわ」朝潮ちゃんの目前にお尻をつきだし、後ろ手に……おまたを広げた霧島さん、「あ、出る……」ぼたぼたと乗が落ちたかと思うと、しゅううう……と勢いよく排尿。奔流はそのまま朝潮ちゃんのお口をびしゃびしゃと叩き、小さな口腔から溢れたぶんが容赦なく顎や首筋、裸のお胸やお腹を汚していく。「ふっ、ふうっ」びくびくと震えつつ懸命に嚙下する朝潮ちゃん、……絶頂しているらしい。霧島さんの伶俐な美貌も、今は羞恥と快感に打ち崩れている。

大淀も知つてると思うけど、あの戦争のあいだ、榛名とはそんなに接点はなかったの。もつと昔は同じ隊にいたこともあるらしいけど、私あんまり覚えてなくて。あ、今年寄りとか思ったでじよ。こう見えても五月雨ちゃんたちとけものフレッシュとか観てるのよ？ まあいいや。だからここへ来て、インド洋作戦ぶりぐらいに榛名とゆっくりお話できるなって思ってたんだけど……ね。呉で……人なにひどい目に遭ったなんて。それで……にいてあげたいって、自然に思つたの。たぐさんの怖い思い出は、たぐさん抱きしめて、溶かしてしまおうって。こういう……関係になるとまではまあ、ちよつとしか思つてなかつたけどね。

榛名の……大事なところは、すぐくえつちだと思ふ。欲目かもしれないけど。硬く尖つたところを覆う厚ぼつたい皮。左側……私から見て右側だけ、天使の羽みたいに広がってる花びら。狭い入り口のまわりを軽くほぐすだけで、白いのこぼり、と溢れてお尻を伝う。こうしてない夜でも、思ひだすうちに身体が火照つて、ひとりで慰めることさえある。私の奥底に押さえつけた昏い感情、鉄底海峡にひとり取り残された絶望が、全身を満たす快感で、少しずつ、和らいでいくのを感じる。

比叡お姉さまの柔らかく、熱い場所にゆっくりと、指をうずめる。少しまさぐり、引き抜く……早くも白濁しかけたおつゆが、とろりと糸を引く。引き締まった精悍な身体のかなかでも、中心のこは隠しようもなく、娘のかたちをしてる。私を想つて、私の手で、比叡お姉さまのこが蕩けることを、私は幸せに思う。そのたびに、脳裏を焼きつづけるあの夏の記憶が、少しずつ薄らいていくように。

呉での最後の戦いは、大変な目には遭いましたが、榛名なりに奮戦したつもりです。着底しても、もうこれ以上沈まないといつて、残留員の皆さんが氣勢を上げていたのを覚えていますし、悔いはありません……ただ……あの朝の閃光と、そのあと空を覆いつくした……うっ、おえ……すみません。はい、榛名は大丈夫です、最近は大淀さんにも、提督にも、艦隊の皆さんにも、金剛お姉さまや霧島にも、その節は本当に……。そして……比叡お姉さま。気を回しすぎる金剛お姉さまとも、考えすぎる霧島とも違って、まっすぐぶつかってきてくださったから……なんて理由付け、あんまり意味がなさそうなんですけどね。だって、気づいたときには、もうすつかり惹かれていたんですもの。



性交 (放尿3)

「あ、あういえ」十七駆の子たちに愛撫され、見たこともないような表情で喘ぐ金剛さん。「金剛姉さん、金剛姉さん」浦風ちゃんやんが指責めしながら泣いている。とろとろの目を、しかしっかりと浦風ちゃんに向けながら、「うん、うん、うん、と領く金剛さん。内地への帰還を果たせずとも散った、最古参の戦艦と最新鋭の駆逐艦、その姉妹たちが、お互いに遺恨などないこと、深い信頼と親愛とを寄せ合っていることくらいわがかりきつていてもなお、求めあい、許しあう。それは、とても尊い光景で……」

えつちな気分が高まると、榛名さんはおもらしをしてしまっ
|と。初めにセックスをしたとき、それにひどく興奮
してしまつた比叡さんは、身体を重ねるときいつも、最後は
一緒に放尿しながら果てることにしている……と、消え入り
そのな声で教えてくれた。そして、目の前でまさに、そうな
るうとしていいる。お互いに、お互いの秘所を激しく責めたて
ながら高めあい……指の合間から、ぶじゅぶしゅと尿が吹き
だす。すぐに混ざり合い、どちらのものともわからなくなり
すでにさんさん飛び散つていた汗や愛液といっしょに、床に
撒き散らされる。余韻に震えつつ、泣き笑う二人。

しよろろろ……霧島さんの腕のなかで達した朝潮ちゃんがおじつこを
出している。「ねえさん……きりしまさん……かわいい……」その光景
を前に、最前から荒潮ちゃんやんは自慰に余念がない……雨降つて地固
まるを地で行く、伶俐でおつた三人の関係には、提督も興味津々な
ようす。元はと言えば、霧島さんがあいうことを始めたのも、提督の
ご趣味がきっかけなんですけどね……

Der Schwere Kreuzer der Admiral-Hipper-Klasse #3

Das Schlachtschiff der Bismarck-Klasse #1

Prinz Eugen

Bismarck

下着姿

「見て見て、オオヨド！ Profund... 重厚な艦体でしょう！ この Unterpanzer もシックで……
Bismarck 姉さまあー、blendend schön!」「Gott...」かぶりを振る、プロンドのお姫さま。
「この艦隊へ来てそれなりに日が経つけれど、未だに理解できないことが多いわ、オオヨド。
そもそもどうしてこんなところにいるのかも、……艦体検査は当然としても、こんな
……erotische Weise...」「まあ、あどみらーるの、ご趣味といたしますか……」「Wie tragschil!」

「でもお、私はみんなに見てもらいたいですよ、姉さまの Nackte。それに、……ローちゃん
もレーベくんもマックスちゃんも、フラウ・グライフももう」「はあ、あなたたちは順応力
が高いのね。……オオヨド、この子のもなかなかだとは思わない？」「私が選んであげたのよ」
「そうだったんですか！ 甘めですよ。ピッタリだけど意外かも」「別に、Unterpanzer まで
私を真似なくても、プリンツ自身のよさがあるわよ」「お姉さま……!! カ、カングキです!!」



胸部装甲・陰部

涙目で、真っ赤になつて、私を睨みつけ、ふるふる震えるビスマルクさん。……正直、いけない気分になる。そういう趣味はないつもりんだけど、(明石さんに厳しい？ まさか!)。「ね、オーヨド、いい……でしよう」普段のぼわわんとした口調が、ぼにゃんぼにゃん、くらいになつてしまつたプリンツさん。それにしても、幼げな雰囲気や体格にそぐわず立派な胸部装甲が……あら？



「あの……刺らないんですね。お二人とも」
「Wo schauest du Idiot?!」おまたを隠して怒鳴るお姫さま。プリンツさんもさすがに恥ずかしそうに、「向こうの人でも、みんな……Schamhaaiを刺るわけじゃないんだよ。姉さまの……blondeぶさぶさとして綺麗でしょう」
「こ、こらっ……いい加減にしないと、あなたにも触るわよ!!!」
「触ってください! むしろ! いつもみたいに!」ほう?
「Schneise!! ……何よ。戦艦が巡洋艦と寝て悪いの? 駆逐艦とそうしている子だっているじゃない」
「いやまあ、悪いなんて今更言いますせんけど……不思議な言葉ですよ。冷静に考えたら」
「……まあね」?

「ビスマルク姉さま、いつもお部屋を暗くするから、あんまりちゃんど見たことがなくて」「だ、だってこんなところ……beschäme mich……」「そんなことない……すぐ綺麗。私のは……大きくて、ちよつとbraunだけど、姉さまのは……ね、オーヨド」ええ。本当に、白人さんの……って、ピンク色なのね……。「そんな、まじまじと見るものじゃないでしょ……あう」柔らかい……ふにふにしてる。すごい、えっちはです……プリンツさんのも、ふふくり可愛い。ビスマルクさんのより大きいのね。「うん……姉さまに、leckend……なめて……もらったり、自分で……さわる、からかな」



放尿 1

「ど、どうして日本の艦娘はPinkel……なんかが好きなの!?」「でも……ビスマルク姉さまだってinteressiertでしょ? 出撃中に、海の上でレーベくんたちといっしょに、ちい……つ……するところ、すつごく気にしてるし」「う……っ」「いいの、姉さまがドキドキしてくださったり、その……もし、オナニーに使ってもらえてたら、私、本当に嬉しいです。……だから、今、私の……pinkeln、見て、ください」しゃがんだプリンツさん、どうするのかなと思っていたら、ぱんつをずらしておまたを露出させた。「いつもね、こうするの」ちゅういいー、じよろろ……髪の毛と同じくらいに色づいたおしっこが地面をたたく。「えへへ、ビスマルク姉さま、すつごい見てる……私、気持ちいい……」ああ……この匂い……好き……。

放尿②

「あ、あなたたち!?」「綺麗だ……
 フラウ、ビスマルク」いつの間にか
 同郷の艦娘たちに囲まれて愛撫され
 ているお姫さま。「姉さま……姉さ
 まのPinkeln、ください」「ろーちや
 ん、くばあしますって」「やあ……
 Stopp... Bitte Stoppen Sie……」「かけて
 姉さま」「あー……っ」「出た、
 ビスマルク姉さんのおちうち、しよ
 わしよわ……えっちいバですって」
 「んく、んぐっ」「Wa tun sich…… ich
 fühle mich……気持ちい……っ」

自慰

すっかり蕩けてしまったビスマルクさんとプリンツさんがお互いのオナニ
 をオカスにしている。ビスマルクさんが持ち出したのは、なんと魚雷。水雷
 戦隊の誰かに教わったんだらう。プリンツさんは二本の指を激しく出し入れ
 したり、クリを圧迫したり……二人とも気持ちよさそう……幸せそう……

太平洋戦争にまるでかわりのないビスマルクさんは、顕現し、回航されて
 きた当初ひどく不安そうだった。（日本語などほとんど喋れなかった）榛名さん
 以上に不安定だった。ゴミュカの塊のようなプリンツさんと再会できなけれ
 ばどうなっていたか。船神さまのおぼしめし……としか言いようがないけれ
 ど、いま、彼女たちは生き生きと輝いている。これでいいんだと私は思う。

La nave da battaglia della classe Vittorio Veneto #2

Littorio(Italia)

下着姿

「Che sorpresa! Flotta combinata. 日本の艦隊というのは、情熱的……なんですわねえ」おずおずと下着姿になるリットリボさん。イタリヤという艦名のほうが付き合いは長かったけれど、それは雪風ちゃんを丹陽ちゃんと呼ぶようなもので、元の名前のほうが思い入れがあるらしい。下着は通販で注文した母国謹製だと教えてくれた。「でもあの、損傷して帰投されたときなど、その……お胸がほとんど見えていたような」、ああ……あの上着、カップつきなんですよ」

胸部装甲

「……ぐぐり」
「Sono un po' imbarazzato……あの、触って……みますか?」
「うおれんていえりり!」
「あ、すこい……ふかふか。」
「うう、癒される……」
「シニョリーナ、オオヨド……お疲れなんですわね。」
「カモミールテイ、淹れまじょうか?」

陰部

「ああ、癒される……」
「せ、せくはらで癒さないでください」
「ばんつを下げて、自分でスカートをめくってもらっている。恥丘に少し残す程度に整えられた、上品な陰毛が目をついてくる。恥に、剃るか残すかは艦娘それぞれなんですわね」
「私は……その、ないと落ち着かないので……」
「CT……あつ、駆逐艦のリベツチオなんかは、まだつるつるで可愛いですよ」
「……夕張さんに聞かれなかったかしら。逆にローマさんとか……やっぱり、スゴいんですか」
「……見てのお楽しみですよ」



性器

性器チエツクをひどく恥ずかしながら、意外な人物を付き添わせることだった。「よし、よし、よし、落ち着きなさい、フラウ・リツト。ほら……とても綺麗よ、あなたのこと。羽根みたいに広がるのね」「シニヨリ・ナ、ビスマルク……」初めて、このドイツのお姫さまを見たリットリオさんの、強張った表情をよく覚えていた。……と、とても意外だ。「とか言いながら鼻の下伸ばしてのね……まあ、私たちに私たちがなりの Beziehung、relazione……かわりがある」ということよ」

放尿

「こんな、Dominiのようなやりかた……」立って、少し足を開いたリットリオさん、さらに指で陰裂を押し広げた。くち……と淫靡な音を立てる。そして、ぷしゅい……と、毛髪と同じように輝く尿が噴きだした。「Sehr erotisch, schön……私も、出すわ」さっき出したからか、色の薄いビスマルクさんのおしっこがしゅうう、ぱしゅぱしゅとリットリオさんのふとももを叩く。ついでに私の顔や眼鏡、口にもしぶきが。ぺろり。

性交

「知ってのとおり、……私もプリンツに聞かされたのだけど、彼女たちは母国が降伏したあと、Luftwaffeに攻撃されたわ。そのとき彼女の妹は……オホヨドもアトミラルも気づいていたでしょう？ 私たちKriegsmarineと彼女たちRegia Marinaがきくしゃくしてしたこと。こういうときはFührer……彼じゃないわ、お互いの頭領どうして話をつけるといいのよ。ナガトとアノオワのように……それで、こういうことを、するようになどいうのもおかしな話だけど。Auf Regen folgt Sonnenschein……あなたたちの言葉だと、雨降って地固まる」だったかしら？ ……私、その……嬉しいのよ。Viele Freundinnen……たくさん、友達に出会えた……から」

Roma

下着姿

性癖、という俗語があると秋雲ちゃんや夕張さんが教えてくれた。なんとというかその、漫画とかアニメとかが好きで好きな若い女性が好んで使うらしい。いえ、私別にそういう趣味は、人並みにしか……。ともかく。オホン。ローマさんの目鼻立ち、性癖かもしれない。なんだかグツときませんかそうですか。「O questa poi」なに人の裸見て鼻の下伸ばしてるのよ。貴女はここではまともなほうだと思っただけだ？」「み・でいすびあつちえ……。それにしても、その、攻めた……。下着ですよね」「そう？、普通じゃない？、これくらい。さすがに「sortieのあいだはこういうのではないけれど」

胸部装甲・陰部

「Fernal」その手をお放し！」「はっ。つ、つ、つ」「まったく……。そんなにFette……。お、女の胸が好きなの？」「そういえば貴女あのお派手なincrociatoreと仲いいわね」「言われてみれば、足柄さんのお胸と似ているような……。」「なんか、好き……。みたい、です！」「ねっ？、ローマさんすごいでしょ？お毛毛ももじゃもじゃ！」「Uffai? リベツチオ ちよつと、子供は来ては駄目よ」「いやー、それがもうネタ上がっちゃってるのよね」「いつのまにやら傍に来ていた、ばんつ一枚のリベちゃん……。なにやら不敵に笑う霧島さん。「聞いたわよ？、あなたみたいに大きくなりたいてはじゃれつくリベちゃんをあしらううちに……。しっぽりと♥」「MAMMA MIA!!!」



性器

「リベ、ダメっ」「どうして？
いつもさw」「オレ、ソレミ、オーっ!!」
「まあまあ、この艦隊じゃ珍しいこ
とじゃないんだから」「イイ感じの笑
みを浮かべた霧島さんになだめられ
ながら、リベちゃんにくばあ……と
陰裂を広げられて、息も絶え絶えな
ローマさん。「ね、姉さん」「ほ
ら見てオオヨドさん、お毛毛がびつ
しり!」「本当……ぐるりと囲って
ますね」「し、処理してもすぐ生え
るのよ……」「いいなあ。びらびら
もおつききて、なんか……戦艦つで
感じ。リベもね、たくさんなめたら
早く大きく強くなるのかなって」ど
うなのかしら……」



放尿

「黄色い水流が陰裂から噴きだし、地面に泡だつた尿溜まりをつくっていく。」「すごいすこーい! やっぱりローマさんのおしっこ、強い!」斬新な感想を述べられ、ローマさんが羞恥に震える。「……こーいうこと、よくしてるんですか?」「……見たいつで言うから……」「いつもはリベも一緒におしっこするんだけど、今日は……あとでね!」「隅に置けないわねえ」



性交

「ふッ、ふッ」「んちゅ……れる、じゅず……」ローマさん、「おいひい」
「リベちゃんにすっかり白濁した愛液を吸われ、懸命に声を抑えるローマさん。」「さくらこら、オナはあとでなさい、我知らず股間をまさぐっていたら、霧島さんに突っ込まれた。」「……山城さんと時雨ちゃんの関係に近いのかもね。」「リベちゃんは先に沈んだらしいけど、ローマさんなりの埋め合わせというかなんて、他人の心理を深読みするだけ野暮ね」



下着姿

うん。うん。だいじはうぶ。……えんにちは、舞風です。あたしは今、……アイオワさんのところに
 来ています。そう、例のアレ。嫌々とかじゃなくて、自分から提督や大淀さんたちにお願したの。
 ちゃんど……お話ししたいつで……あはは、あたしけっこう背あるほうだけど、こうして並んだら
 ちんちくりんだなあ。アイオワ……さん、大和さんより背高いもんね。ぱんつも……あたしのは全然
 子供だし、ブラも要らないくらいだし。アイオワさん、綺麗……だよ。あの日も、綺麗だった。

胸部装甲・陰部

はえー、ほんとにおっぱい大きいなあ。でも下は……うん、剃ってるんだよね。
 金剛さんや赤城さんとおんなじ。……え、いいの？ やたっ。……すっごい、
 おっぱいふかふか……。うん、ドックで、他の子たちにおっぱい触らせてあげ
 てるの、見てたよ。ちよつとوراやましかった。人気だよ、アイオワさん。

……もちろん知ってるよ。すごく強くて優しく、いい人だったこと。だから
 のわっちが……ごめんね。でもわっちだつてとつてもいい子なの！ いい子
 だから、あたしのために……でもやっぱり、わっちがあんな怖い顔するの、
 悲しくて、だからね、泣いてばかりいないで、あたしがなんとかしないと、
 思ったの。

性器

わあ……。なんか、……。すごい。さわつて
 も、いい？ え。あ、あたしだつて駆逐艦
 だもん、興味あるよ！ ひどりですること
 もあるし！ ……あ、なんか、萩ちゃんも
 触らせてもらったときみたい。萩ちゃんも
 あつ、萩ちゃんはあたの友達でね、大人つ
 ぼくてお料理上手くてとつてもいい子だよ
 いつか、アイオワさんにも紹介したげるね
 うん、その、お毛毛は剃つてないからたく
 さん生えてて、こういう大きなびらびらで
 ……アイオワさん……。あたしのも見る？
 全然子供っぽいけど。……。え、ふりてい
 ……そ、そお？ え、えへへ、ありがと、
 なんか恥ずかしいや。わー、あたしアイオ
 ワさんとおまんこ見せ合つちやつた。……
 おんなじのが、ついてるんだよね。かたち
 だいぶ違うけど。なんか、……。安心した
 あたしたち同じなんだつて、やつと……。
 あ、あれ……。なんで……。ふ、ふええええ



放尿

アイオワさんに抱きしめられて、結局、わんわん泣いちゃつた。
 アイオワさんも泣いてくれた。別に、謝つてほじかつたわけ
 じゃないの。あれは戦争で、あたしたちは海軍の船で、敵艦を
 沈めるのが任務で。だからアイオワさんはあの日、あたしたち
 を……。のわつちを追いかけて……。それから……。でもね、アイ
 オワさんもあたしも、乗つていた人たちも、それらの義務を
 全うしただけなの。のわつちだつて、そんなことわかつてると
 思う。それでも……。それでも溢れ出るぶんを、アイオワさんに
 すくい上げてもらつたんだつて、ふたりしでおしつた。……。ふたりして
 いっぱい泣いて、そのあと、ふたりしでおしつた。……。ふたりして
 自然にね、ぱんつ下ろして、向かい合つて……。ふたりして、お互い
 のおまた見ながら、ちしつて……。ふたりで笑つちやつた。
 ……もう、なんのわだかまりもなくなつたつて、わかつた。今度、
 のわつちも誘うよ。絶対、友達になれるつて、あたし信じてる。



ええと……。当艦隊は個艦の尊厳を最大限に尊重するのが提督の方針。艦娘どうしの自由恋愛は性交渉を含め全面的に容認され、たとえ駆逐艦でも、艦隊内部では成年と対等の責任主体として扱われる……。の、だけど。
「さあ、これは……ちよつと、どうなんでしょうローマさん」「何も言わないでオオヨド」縞々のぼんつ一枚で飛び跳ねているリベちゃん。、である。

胸部装甲・陰部

まあ霧島さんどころか提督が率先してあんな感じなので今更だけど……。と仲のよい「キヨシ」こと清霜ちゃんとすっぽんぽんで並んではしゃぐ、日焼けした少女を眺める。そう清霜ちゃんある意味今回の黒幕である彼女は、と私の隣にいて、戦艦のお姉さま方の肢体やら痴態やらに、興味津々だった。「すごいよねリベちゃん。みんなおつききて、えっちで」「リベたちも、Metiamocela tutai! がんばろう?」「まだおっぱいもぺったんこだし、おまたもつるつるだしね私たち」えー、こほん、私はロリコンではありません。清霜ちゃんのほうがお胸は少し膨らんでいるとか、金剛さんやアイオワさんとは違う、本当のの割れ目ねとかただの客観的な感想です。



性器

「キヨシ、広げてー」「うん」清霜ちゃんの小さな指でくちゅと陰裂が押し広げられる、そのためらいのなさに私は少し動揺し、ローマさんは盛大に咳払い。「リベの……feca、どお?」「ふっふおん!」ローマさんがむせた。たぶん女性器のことなんだろう……って、え、私コメントするの?「え……ええと、可愛い……ですよ。リベちゃんの唇と同じ色で小さくて」「うー。ローマさんみたいなぐねぐねのもじりもじりに、早くならないかなあ。せつかく、気持ちよくしてもらってるのに」「Dio mi scampi!」すつかり縮こまっているローマさん。「いいなあ。清蔵さん、そういうことはしてくれないから。清霜は無理やりされてもいいのに」「くちくかんこわい。」「キヨシのfeca、さわるとぶにぶにして気持ちいいのにおね。……ん、キヨシ……そろそろ」「あ、ごめん。おじっことしたくなかった? 一緒にじよっか」

放尿

「えへへ……こんな、大きいお姉さまたちの目の前でするの初めてだねキヨシ」「私は夕張さんには見せたことあるけど……なんか、恥ずかしいね。あ、出る……」「じはろろろ……」「ん……リベも」「しいい……ぱんつを下ろしてじやがむ二人の少女の、桃のような割れ目からおじっかが飛ぶ。「キヨシの……」出てるところ見るの、下まどキしてリベ、好き」「清霜もね……」「リベちゃんのおまた、おしっこしてるときが二番かわいくて……えっちに見える」「リベ、キヨシと友達になつてよかった! オオヨドさん、リベたち、強くなれそう?」



藤波

胸部装甲。 陰部

ちやう、まっ、沖、沖ちんっでば、待つて待つて、待つてんでんたろ！ あ、いやごめん、とにかくタンマ。ひゃ、百歩譲って、艦娘つてのになつた以上身体検査が必要つてのは、わかる。けど、なんで沖ちんとか、大淀さんとか明石さんとかにぞろぞろ囲まれてんの？ つてか、なんで沖ちんとか、早ちんとか脱いでんの？ 沖ちん目据わつてて怖いんだけど、ひゃ!? 大淀さん!? え、早ちんとか脱いでんの？ 沖ちん目据わつてて怖いんだけきた型録で、これ、アリかなつて。そんだけ。そお？ 別に、夕雲姉がもつて

う、うあ……は、裸になつちやつた。は、恥ずかしいに決まつてんだろ！ だいたい藤波の裸なんて見てどうすんのさ。このとおりひんぞーだし。それこそ沖ちんとかのほうが……え。マジで脱いでる。ええー……うん、沖ちん、けっこう胸あるよね。長波姉や夕雲姉ほどじゃないけど。うん、ぎゅつてすると、柔らかくて気持ちいいんだよ。いい匂いするし。……は!? 下の毛!? へ、変などこ比べんな！ 生えるでしょ毛くらい普通！ いや、つるつるの姉妹多いけどさ……うん。あんまり自分の身体、好きじゃない。もっと、強くなりたいのに。あの人みたいだ。そう、こういう精神な。あ!? ち、ちよ……鳥海……さん!? や、んばあああ！ 見ないでえ!!!



放尿

こ、ここで!? そんな、いや、海で沖ちんとかと連れションすることはあるけど……
 ちよ、鳥海さんと!? そんな、ダメだよ! あ、イヤとかじゃなくて……あ、あつ。
 ……出てる……鳥海さん、おしっこしてる……まんこ綺麗……。う、藤波も……出る。
 ……あ、やばい、気持ちよく……すごい、おしっこついで、こんなにエロいんだ……

性器

や、らめ、そんなところ汚いよ鳥海さん……か、かわいくないし、まんことか! ……名前? ……そうだよ、はじめて、呼んだ、よ。
 ……だって、知ってるんでしょ? あのあとのこと。藤波、せっか
 く助けた鳥海さんの……結局、誰も……こ、声なんか……。ここへ
 来たばかりのとき、自分の姿、鏡で見て、それから、鳥海さんを見
 かけて……これは罰なんだから、思った。中途半端に似てる髪型と
 この髪留めと……泣かないでよお! 鳥海さん優しくして、絶対藤波
 のこと責めたりしないって……それに甘えちゃうって、わかるか
 ら……藤波……う、うあああああ……

性交

半ば呆然としている藤波ちゃんを容易く押し倒し、
 私は「おそうじ」をしてあげた。性器に残る尿を舐め
 とり、ゆっくり味わう。もっと早く藤波ちゃんに向き
 合うべきだったという思いで新たな涙があふれる……
 けれど、今、私は藤波ちゃんの女の子のしるしに触れ
 ているのだ。これからも……思いよ伝わればかりに、
 私はその部分を丹念に刺激し続けた。やがて、息を
 詰まらせるような嬌声を上げた藤波ちゃんのそこ
 から、しゅっ、しゅっ、と液体が噴きだした。

……あの、おしっこ……行きたい……

Fleet Girls Erotic Painting Collection









おしっこれくしょん 戦艦編 上
Combined Fleet Girls Collection FAN BOOK Vol.20

発行日 2017年05月07日

発行サークル LUNATIC PROPHET
web <http://circle.lunaticprophet.org/>
pixiv id=92903

発行人 有村悠 Yuu Arimura
e-mail edgeoftheseason@gmail.com
twitter id=@lp_announce

印刷所 株式会社 くりえい社
web <http://www.kurieisha.com/>

produced by Lunatic Prophet
2017.05.07.

Auch!!ヤッてくれたわね!